

防災に配慮した都市づくり

地下浸透の工夫 (ちょっとした工夫で町を守ろう!)

仙台地域では、降雨時の雨水流出量が増大し局所的な浸水被害が発生しているほか、健全な水循環に障害が生じています。これらの問題に対応するために「仙台市雨水流出抑制実施要綱」を作成し、公共施設への浸透・貯留施設の設置の他、市民、事業者に対し雨水浸透施設設置の必要性を普及・啓発しています。

関係者 市民、事業者、仙台市

期待される効果 雨水浸透施設の設置により以下の効果が期待されます。

- 市街地では、今後の施設整備計画を進める上で、5mm/hrの雨水浸透能力を確保することにより、雨水の流出が抑制され、浸水被害の拡大や水環境の悪化が防止されます。
- 雨水対策が急務な地区では、既存施設に対して浸透施設を設置することにより、浸水被害が軽減されます。

実施方法

- 雨水浸透施設としては、浸透ます、雨水浸透管、浸透側溝、透水性舗装などが施工されています。
- 平成10年度より開発行為（0.1ha～1ha）の事前協議の際に「雨水浸透施設設置の手引き」（平成10年仙台市下水道局作成）により設置の指導を行っています。
- 「仙台市雨水流出抑制実施要綱」に基づき、貯留目標（敷地面積100㎡当たり0.5㎡）の浸透施設の設置をしています。



- 仙台市では、今後、雨水浸透施設の設置を市民・事業者に対して普及・啓発を図るとともに、合せて助成制度の検討を進めています。これから新築・増改築をお考えの皆様には、雨水浸透ますや透水性舗装など雨水浸透施設の設置の協力をお願いします。

河川・用水路・ため池の活用 (災害に強い町をつくります)

仙台市消防局では消火用として、河川水の利用を期待している箇所もあります。消火用水として河川や用水路、ため池を活用することにより、災害時の安全度を高めることが可能です。

関係者 市民、土地改良区等関係団体、仙台市、宮城県、東北地方整備局

期待される効果 大規模震災などの災害時には、生活用水（飲料水他）、及び消火用水として活用することが可能です。

実施方法 ①河川・用水路・ため池の活用の検討

- 市街地を流れる梅田川、六・七郷堀や市内のため池の水を災害時の生活用水や消火用水として活用できるよう必要な施設整備を検討していきます。



北の中・北の下ため池（鶴ヶ谷団地）



天沼（太白区三神峯の住宅地）



大沼（仙台東部地区）